

2022年8月2日

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
(コード番号 8306)
株式会社三菱 UFJ 銀行
米州 MUFG ホールディングスコーポレーション

MUFG Union Bank 株式譲渡契約締結に伴う 2023年3月期第2四半期決算（日本基準）における損失の計上について

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（代表執行役社長 亀澤 宏規、以下 MUFG）および株式会社三菱 UFJ 銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一）は、MUFG の米国子会社である米州 MUFG ホールディングスコーポレーション（CEO Kevin Cronin、以下 MUAH）を通じて保有する MUFG Union Bank, N.A.（以下 MUB）の全株式を U.S. Bancorp（以下 USB）に譲渡（以下 本株式譲渡）することについて USB と合意し、2021年9月21日に公表いたしました¹⁾。本株式譲渡に係る株式譲渡契約（以下 本株式譲渡契約）の締結により売却目的保有に分類された資産の時価変動に伴い、MUFG は 2023年3月期第2四半期の連結決算（日本基準）において損失を計上する予定です。

1. 損失の内容

本株式譲渡契約の締結による MUB の売却決定に伴い、MUAH では本株式譲渡に係る売却対象事業に対して時価評価（低価法）が適用される結果、四半期毎に MUB の資産の時価変動による損益を認識しております。米国金利上昇に伴い、MUAH は、2022年12月期第1四半期（2022年1月～3月）において、売却予定の有価証券及び貸出金に係る公正価値評価による損失等 2,712 億円を計上しました²⁾。当該評価損失は、本日公表の MUFG の 2023年3月期第1四半期連結決算に反映されております。

また、2022年3月末以降の金利上昇により評価損は拡大しており、MUAH は、2022年12月期第2四半期（2022年4月～6月）において、売却予定の有価証券及び貸出金に係る公正価値評価による損失等約 3,600 億円を追加計上する見込みです³⁾。

結果として、MUFG の 2023年3月期第2四半期（中間期）連結決算にはこれらの損失が累計で約 6,300 億円反映される予定です。

2. 業績への影響

当該評価損失約 6,300 億円のうち、その他有価証券の税効果相当や満期保有目的の有価証券及び貸出金等に係る約 4,400 億円については、USB への売却実行に伴い特別利益として戻入となる見込みです。

また、戻入とならない評価損についてもヘッジ取引を行っており⁴⁾、結果として、通期親会社株主に帰属する当期純利益への影響は 2,000 億円程度の損失となる見込みです⁵⁾。

尚、与信関係費用や経常利益に影響はあるものの、MUFG が 2022年5月16日付で公表した 2023年3月期通期の業績目標「親会社株主に帰属する当期純利益」10,000 億円には当該 2,000 億円程度の損失を織り込み済みであり、業績目標の変更はございません。

[1] 2021年9月21日付の「MUFG Union Bank株式の譲渡契約締結およびU.S. Bancorp株式の取得について」は以下をご参照ください。

https://www.mufg.jp/dam/pressrelease/2021/pdf/news-20210921-001_ja.pdf

[2] 売却予定の有価証券に係る公正価値評価による損失等 2,270 億円をその他臨時損益に計上し、また、売却予定の貸出金に係る公正価値評価による損失等 442 億円を与信関係費用に計上しております。

[3] 売却予定の有価証券に係る公正価値評価による損失等約 1,700 億円をその他臨時損益に計上し、また、売却予定の貸出金に係る公正価値評価による損失等約 1,900 億円を与信関係費用に計上見込です。

[4] 一部ヘッジ不可のリスクが残存しますが、影響は最大±数百億円程度に留まる見込みです。

[5] 1 ドル=136.68 円での計算。為替レートにより変動する可能性があります。

MUFG による将来予想に関する記述についての注意事項

本資料には将来予想に関する記述が含まれています。将来予想に関する記述には、「予定する」、「見込む」やその他類似する表現により将来の状況等を説明しております。実際の結果等は、将来予想に関する記述にて見込まれる予想とは大幅に異なる場合があります。MUFG は、法令により求められる場合を除き、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を負いません。したがって、本資料に含まれる将来に関する記述はあくまでも現時点でのものであり過度に依存いただくことのないようご注意ください。

以 上